

平成 23 年 2 月

マフラーの片端ひだり肩にのる
追はれしを忘れたふりの稲雀
うそ寒と言へども寒さ嘘でなし
バスが来る時雨の傘を畳まねば
平成の秋に灯して LED
手袋の片つ方早くも未亡人
直角に北風まがりビルの街
もの音をことごとく消し夜の雪
温めたる足に蹴りとばされあんか
黄金色なればお値打ち夕焼雲
節分の鬼は原色赤と青
虹またぐ村の境界など知らず
木々の直立木枯の訪問に
街角やミニはミニでもシクラメン
季語になりそこねて拗ねる竹とんぼ